



2023年度マーじゃん同好会 第六回戦

開催日 2023年9月26日(火) 12:00-16:00
場所 グランド雀荘ホール「藤」
参加者 8名 担当幹事 高橋義一さん

ホームグラウンドの「藤」で、健康マーじゃん同好会第六回戦を行いました。

今回 高橋幹事が都合で欠席する事になり角張幹事が代行を務めての開催となりました。

参加者8名で2卓を目指し奮闘し 無事2卓8名で楽しむ事が出来ました。ありがとうございます。

初参加者 斎野一彦さん 小関光晴さん 2名 宜しくお願ひ致します。

対戦は両卓とも親の連荘が続き時間を要した事から2荘迄となり 15:30 と早めの時間で終了。

高橋幹事に代わり次月の予約を行ない雀荘を後にする。

一組目対戦得点 角張さん 武藤さん 澤田さん 小関さん



一荘目 1位 武藤さん 28,000点
二荘目 1位 澤田さん 30,000点
勝負師 武藤 澤田両氏が激戦繰り広げた模様

二組目対戦得点 八木さん 坂本さん 阿部さん 斎野さん



一荘目 1位 坂本さん 43,000点
二荘目 1位 坂本さん 32,000点
途中親流れ含め10連荘もあつたが 坂本さんの攻勢が続きダントツの成績と成りました。

次回 **10月**は
第四**水曜日25日**
行います。
ご注意
次回は都合で火曜日から
水曜日に変更

場所は何時もの
「グランド麻雀ホール藤」
です。

開始は正午からです
是非ご参加下さい

千年以上の歴史を持つ『麻雀』

麻雀の歴史は古く、麻雀の発祥の地は中国です。千年以上の歴史を持つ『マーチャオ(紙牌)』が麻雀ゲームの始まりです。140年前頃、マーチャオが改良され、今の麻雀牌の形になりました。

中国の年号では清朝末期に、港町、浙江省寧波(ニンポウ)の地で今の麻雀の形に出来上がったと言われています。この近代麻雀の発明者は、陳政鑰(魚門)だと言われています。陳魚門は大平天国の乱を制圧する側の高級官吏の人でした。

歴史学者により、<近代麻雀の発明者が陳魚門である>ということが確認されてから、また、中国中央政府によって麻雀が公認されたことから、浙江省寧波市が麻雀の発祥の聖地として積極的に押し出し、日本の千葉県岬町に次ぎ、麻雀起源地陳列館をオープンさせました。麻雀が生まれた140年前の中国は、長い鎖国から開国に向かいつつあつた頃で、寧波や上海に多くの外国人が駐留していました。

それらの外国人の間でたちまち麻雀が楽しめるようになり、やがて彼等を通じて欧米や日本、アジア諸国など広く世界に伝わりました。

米国人のJ.P.バブコックが1919年に欧米向けに麻雀牌の輸出を始めたのが直接的なきっかけになり、1920年代に世界各地で爆発的な流行をみることになりました。

日本に麻雀が伝わったのもその頃で、1920年代初めの大正末期から昭和初めに、麻雀牌が中国から入ってくるようになると、菊池寛ら文士や文化人、ジャーナリストがたちまちこれに熱中し、彼等が書く記事や写真を通じてあつという間に日本に広まったようです。 [全国麻雀業組合総連合会ホームページより](#)